

北九州港基地港湾整備における直轄工事

整備手順

■ステップ1(令和2～3年度)

- ①護岸背後の土砂を掘削するとともに、既設護岸を撤去



■ステップ2(令和3～4年度)

- ②鋼管矢板打設のため、地盤を先行掘削
③岸壁の前面となる鋼管矢板を打設



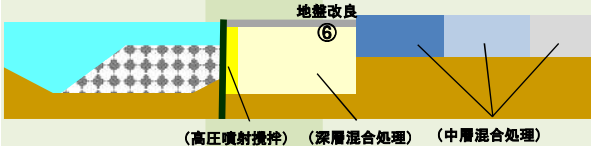
■ステップ3(令和4～5年度)

- ④鋼管矢板背後を、障害物を取り除いた土砂で埋め戻し
⑤矢板の変位防止のため、鋼管矢板前面に雑石を仮置き



■ステップ4(令和5～6年度)

- ⑥鋼管矢板背後を深層混合処理等で地盤改良し地耐力を強化



■ステップ5(令和6年度)

- ⑦鋼管矢板前面の雑石を撤去
⑧前面泊地の地盤に雑石を投入し、泊地の地耐力を強化



■ステップ6(令和6年度)

- ⑨岸壁上部工及びヤード舗装(砕石)
⑩前面水域を浚渫により増深し、航路・泊地を整備



令和6年10月 一部供用
令和6年11月 全面供用

Highlight

鋼管矢板打設状況



土砂埋戻し状況



地盤改良状況



上部工施工状況



北九州港 基地港湾整備事業



国土交通省
九州地方整備局



基地港湾とは

《なぜ基地港湾が必要？》

洋上風力発電設備の設置及び維持管理には、重厚長大な資機材を扱うための高い耐荷重性を備えた岸壁や、長尺資機材の保管・組立が可能な規模の荷さばき地を備えた埠頭を有する港湾が必要となります。

《基地港湾制度》

洋上風力発電事業者は、風車の設置・維持管理のために長期にわたって埠頭を使用することから、令和2年2月施行の改正港湾法では「国が海洋再生可能エネルギー発電施設等拠点港湾〔基地港湾〕を指定し、その埠頭を発電事業者に長期・安定的に貸し付ける」ことができる制度を創設しました。

《北九州港における基地港湾》

北九州港は、平成29年2月に港湾区域内の洋上風力発電事業者が選定されたことなどを踏まえ、令和2年9月に国土交通大臣より基地港湾として指定されました。

九州地方整備局と港湾管理者〔北九州市〕は、令和2年度から基地港湾の整備を実施しており、令和6年秋に竣工を予定しています。

また、洋上風力発電事業者〔ひびきウインドエナジー㈱〕は、令和7年度の運転開始を目指しています。

北九州港基地港湾利用のイメージ

出典：ひびきウインドエナジー㈱パンフレット



鋼管杭を海底地盤に打設



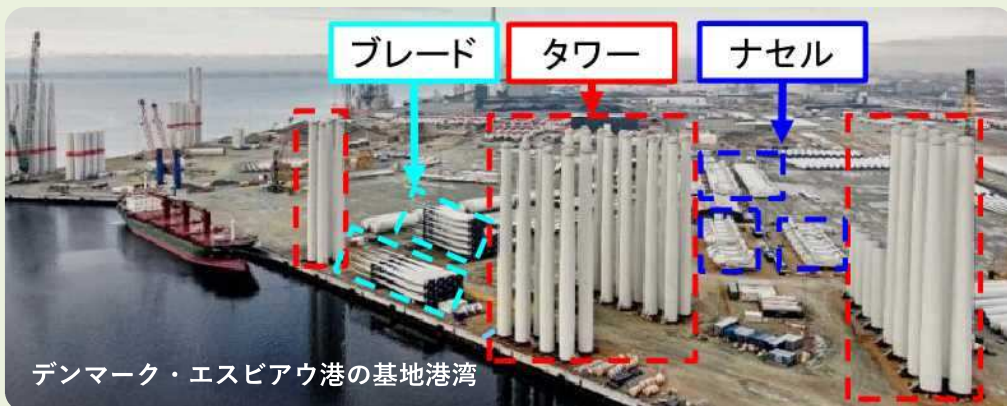
工場で製作したジャケットを洋上に運搬し、設置



基地港湾にてタワー等を仮組立し、SEP船にて洋上運搬



ジャケットの上に、タワー・ナセル・ブレードなどを設置



出典：国交省HP/2050年カーボンニュートラル実現のための基地港湾のあり方に関する検討会資料

事業概要



【整備施設】

九州地方整備局：岸壁(水深10m) 泊地(水深10m) 航路・泊地(水深9m)

北九州市：埠頭用地

北九州港基地港湾の岸壁構造

